

風土記の丘の花だより²⁶⁸

今、そしてこれから見られる植物(2025年4月12日)

ヤマザクラやソメイヨシノが散り、カスミザクラが咲き始めています。トイレ近くの広場のイチヨウもきれいです。近くにはイチヨウの木もありますが、サクラの名前はイチヨウ(一葉)です。ややこしいですね。これをご覧いただく頃にはみなさんお待ちかねのギョイコウも咲いているでしょうか。



これがそのイチヨウです。花の中に一枚の小さな葉があるのでこんな名前が付けました。もちろん野生種ではありません。こんなサクラはひとまとめにしてサトザクラと呼ばれます。山に咲く野生種の子ヤマザクラ(山桜)に対して、人が里に植えるので里桜です。いろいろな品種があり、見分けがとても難しいです。人は長い歴史の中で、様々に掛け合わせ、改良を重ね、様々な品種を作り出し、接ぎ木や挿し木などで増やして、品種を保存してきました。それで今私たちはいろいろな桜の花を楽しむことができるのです。



クルクル巻いているのはお馴染みのゼンマイです。山菜としてよく知られていますね。シダの仲間、このクルクルしたところを根元から折って、食用にします。ワラビもこの時期の山菜で、みなさんよく摘んでおられますが、ゼンマイは食べるまでの処理に少し手間がかかるので、あまり摘まれていないようです。これは葉になる新芽で、展開すると数十センチほどの大きな葉になります。胞子を付ける新芽は葉が展開した頃には枯れてしまいます。



春と言えばどんな花をイメージするでしょう。サクラやスミレなどたくさんある中で、忘れてならないものにタンポポがありますね。写真は、は花の下にベロベロしたものが付いているセイヨウタンポポです。風土記の丘ではあとカンサイタンポポも咲いていて、どちらも同じくらいたくさん見られます。カンサイタンポポは花の下がすっきりしています。タンポポを見かけたら、花の下を見て、何タンポポか確かめてください。



谷山家住宅の庭や万葉植物園などでヤマブキの花が咲いています。昔から親しまれている万葉植物の一つです。高市皇子(たけちのみこ)の「山吹の立ちよそいたる山清水 酌みにいかめど道の知らなくに」の歌は有名です。亡くなった人を偲ぶ悲しい歌です。とてもきれいな山吹色の花です。葉の緑とのコントラストがとても印象的です。

次の269号の発行は、勝手ながら一日遅れの4月20日(日)とさせていただきます。ご了承ください。 松下